

動物の核医学検査の例

日本の動物病院で行うことができる核医学検査には次のようなものがあります。小動物はイヌとネコだけ、大動物はウマの骨シンチグラフィに限って検査を受けることができます。

FDG-PET	腫瘍（がん）の転移 腫瘍の悪性度判定 炎症の予後判定 心機能評価
骨シンチグラフィ 骨SPECT	転移性あるいは原発性骨腫瘍 骨折と予後評価 汎骨炎・骨髄炎・関節炎 骨の循環不全
門脈シンチグラフィ	門脈体循環シャント
甲状腺シンチグラフィ	甲状腺機能低下症 甲状腺機能亢進症 甲状腺がんおよびその転移 腎不全
腎シンチグラフィ	抗がん剤治療前などの腎機能 評価
副甲状腺シンチグラフィ	副甲状腺機能亢進症 副甲状腺がんと過形成の鑑別
肝胆シンチグラフィ	胆管閉塞 閉塞性と実質性黄疸の鑑別 高分化型肝がん 胆汁排泄能評価
心血流イメージング	胆のう炎 心不全、心筋症
胃腸イメージング	タンパク漏出性腸炎 出血性腸炎

核医学検査を受けられる動物病院

北里大学獣医学部附属動物病院

2019年の時点で、国内で唯一核医学検査を行うことができる動物病院です。

患者の状態や検査の内容によっては、麻酔・鎮静を行う必要もあるので、受診にはホームドクターからの紹介が必要です。

問い合わせ先

学校法人北里研究所 北里大学

獣医学部附属動物病院 小動物診療センター

電話 0176-24-9436

FAX 0176-22-3057



病院ホームページ

空路

三沢空港よりタクシーで25分

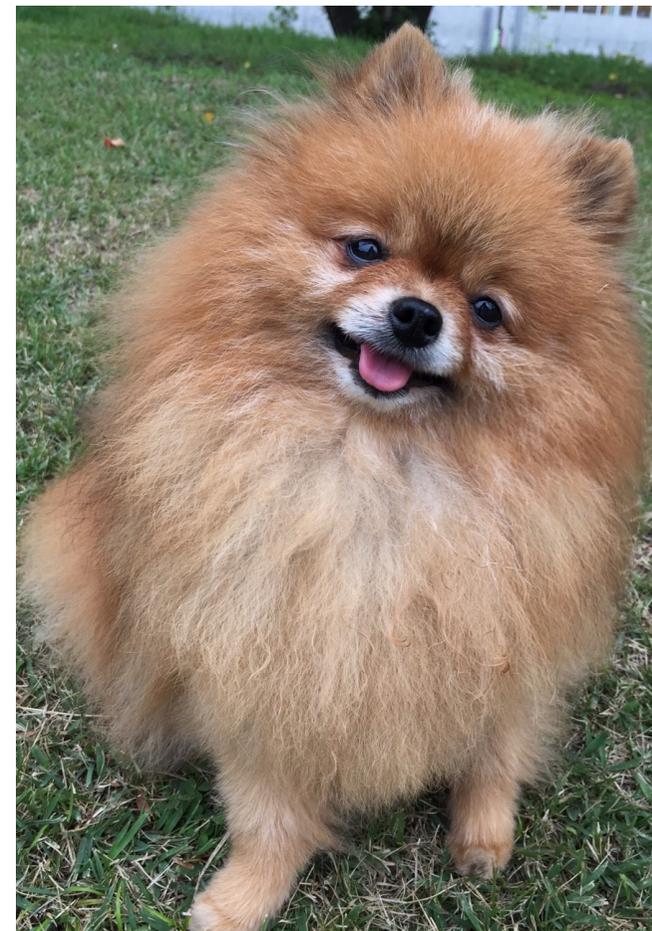
新幹線

七戸十和田駅よりタクシーで20分



核医学検査パンフ

ペットの核医学ってどんなもの？



北里大学獣医学部

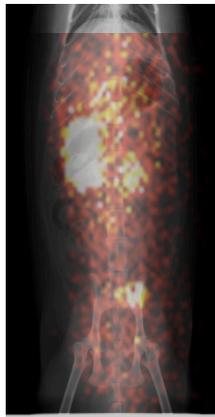
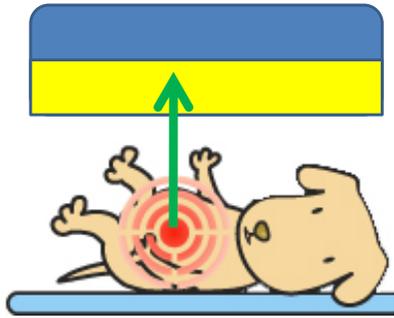
Kitasato University School of Veterinary Medicine

核医学検査ってどんな検査？

臓器の機能を見る検査です。臓器だけでなく腫瘍（がん）の場所を教えてくれる検査もあります。

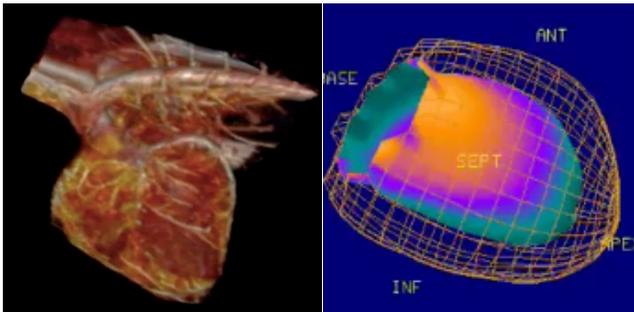
薬は体の中に入ると、いろいろな臓器へ吸収され、利用されたり分解されたりします。その薬に放射線を出すアイソトープという物質をつけておけば、薬から放射線がでてきます。

その放射線を体の外からカメラで薬の動きを追うことで、臓器の機能を評価します。



他の検査ではダメなの？

イヌやネコも人と同じようにX線、超音波、CT、MRIと検査が行われていますが、いずれも「形」を見る検査です。形が保たれていても、細胞が生きているとは限りません。

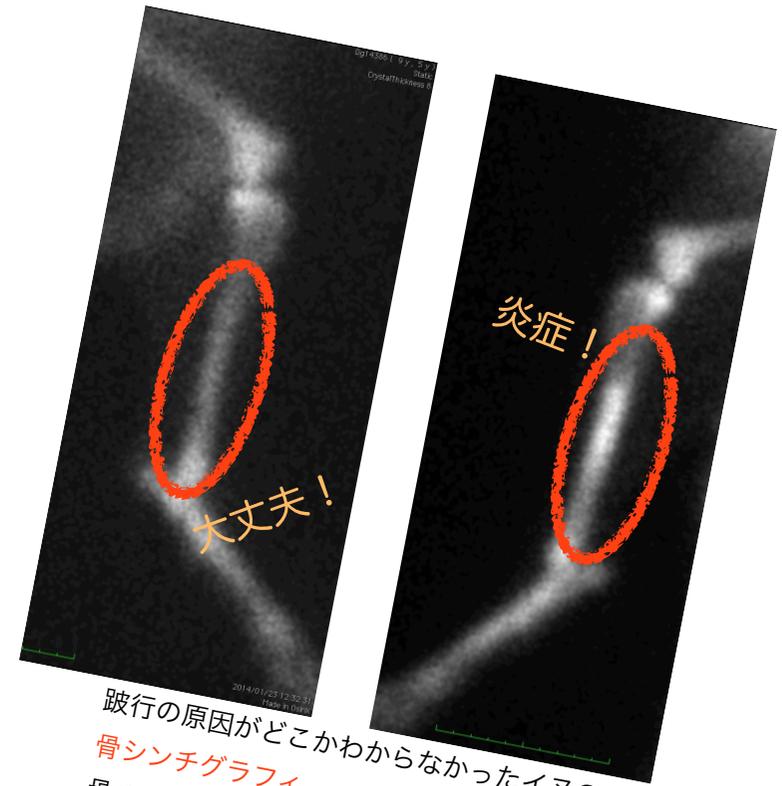


核医学検査のいろいろ

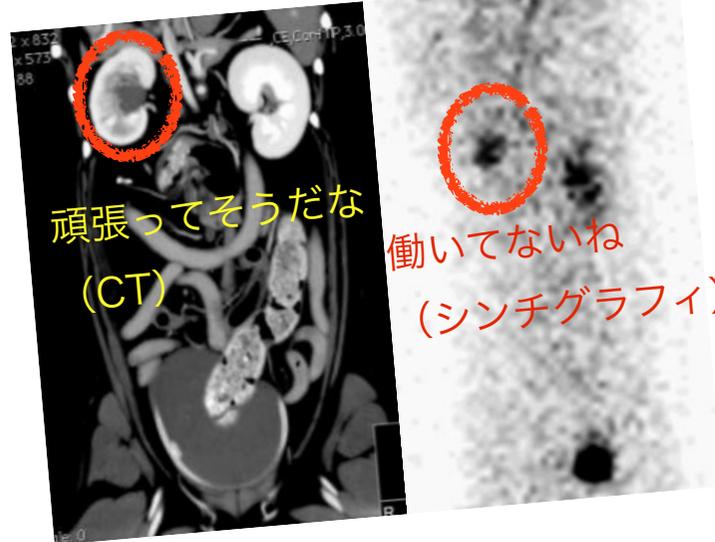


骨肉腫が肋骨へ転移したFDG-PET

（フルオロデオキシグルコース陽電子断層撮影法）悪性腫瘍（がん）はとめどなく糖（グルコース）を取り込み続ける性質を利用して、CTでも発見できない腫瘍を見つけたり、がんが本当に完治したかを判断します。



跛行の原因がどこかわからなかったイヌの骨シンチグラフィ
骨の腫瘍だけでなく、ちょっとした骨折や炎症がどこにあるのかレントゲン検査でもわからないときに威力を発揮します。



腎臓腫瘍の腎シンチグラフィ
腎臓に異常があるからといって、単純に手術をしては いけません。ましてや取ってしまえば戻せません。血液が通っていても、機能しているとは限りません。手術をしていいのか悪いのか、左右それぞれの腎臓機能を正確に評価できるのは、腎シンチグラフィしかありません。